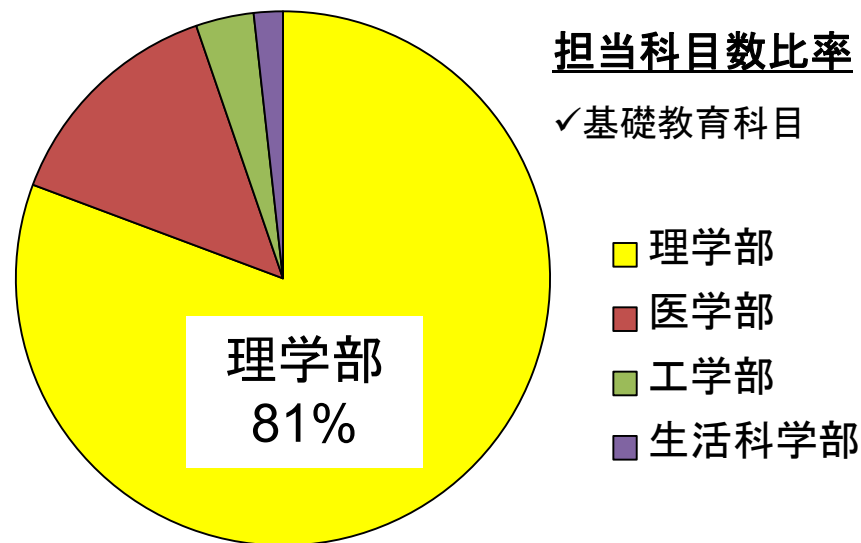
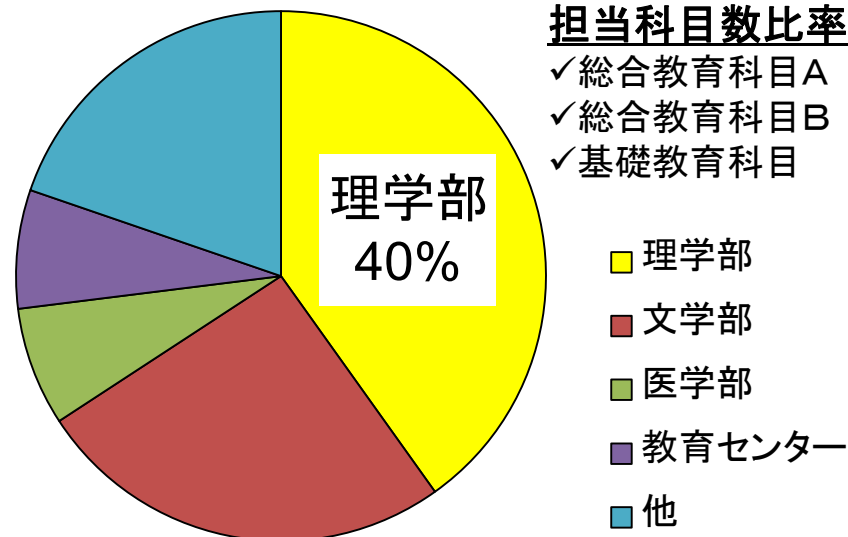


# 全学共通教育への理学部の寄与： ⇒ほぼ全員出動

## ＜専任教員が担当する科目数比率＞

- ◆「全学共通教育科目」(語学・健康スポーツを除く)の開講科目の**40%**を理学部が担当
- ◆「基礎教育科目」(※)の開講科目の**81%**を理学部が担当。  
(多くの科目は**同一科目複数クラス**)
- ◆**教員数比で15%**の理学部が
  - 全学共通教育開講クラスの**45%**
  - 基礎教育科目開講クラスの**85%**を担当(次頁)

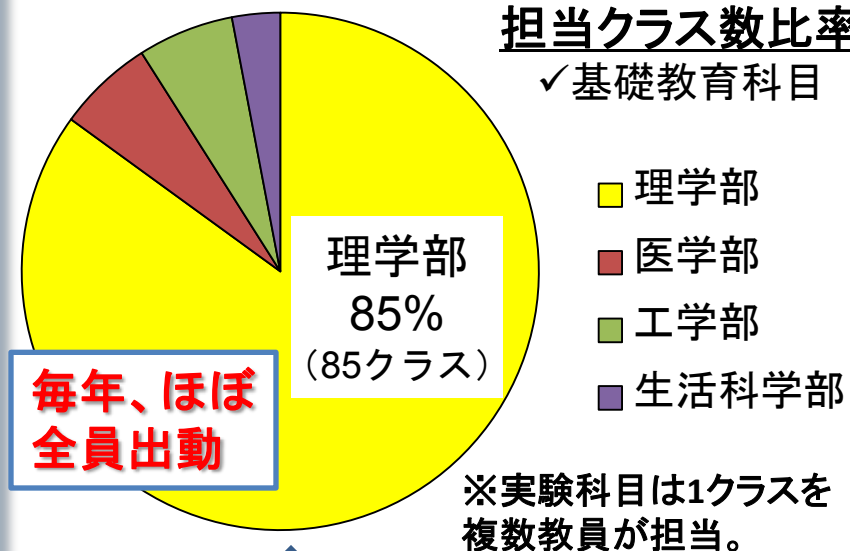
※基礎教育科目とは：理科系学部(理、工、医、生科)の学生が低学年次に学ぶべき共通科目(数学、物理学、化学、生物学、地球科学、図形科学)で、理系の基礎的学問分野を体系的に学ぶ科目群。専門基礎教育ではない。



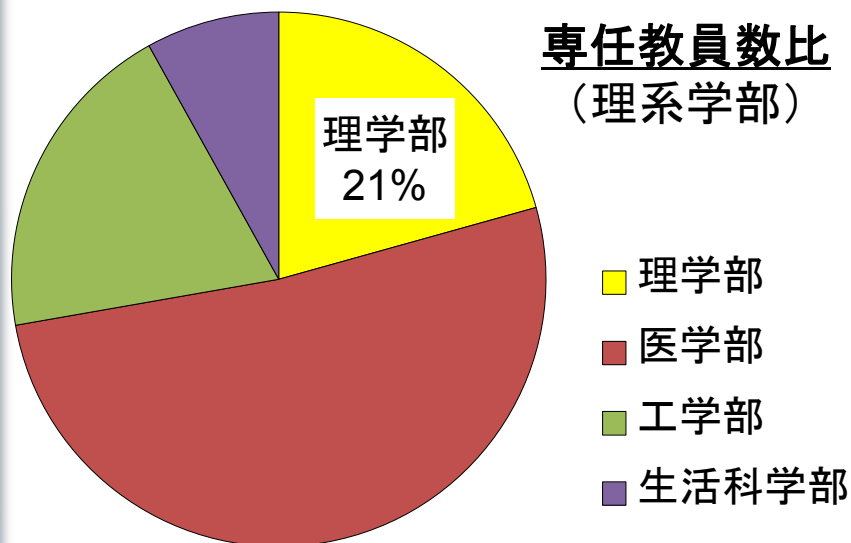
## 基礎教育科目

### 担当クラス数比率

✓基礎教育科目



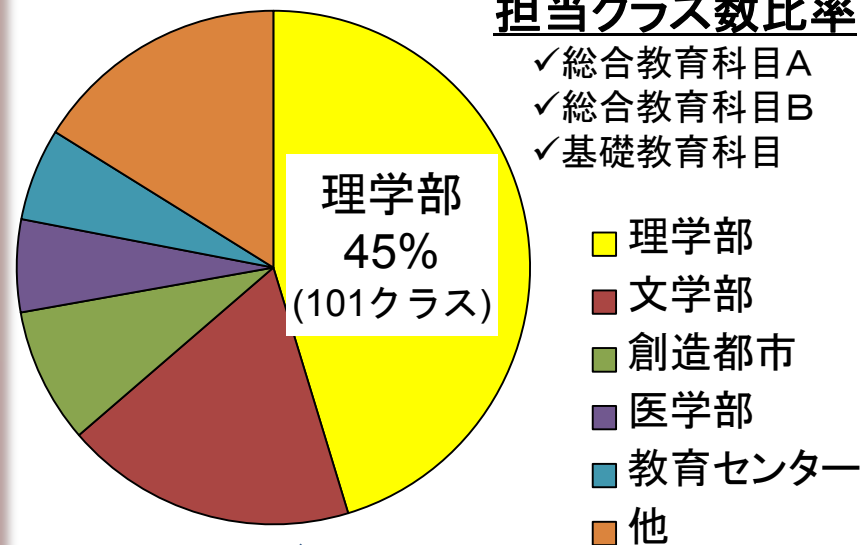
### 専任教員数比 (理系学部)



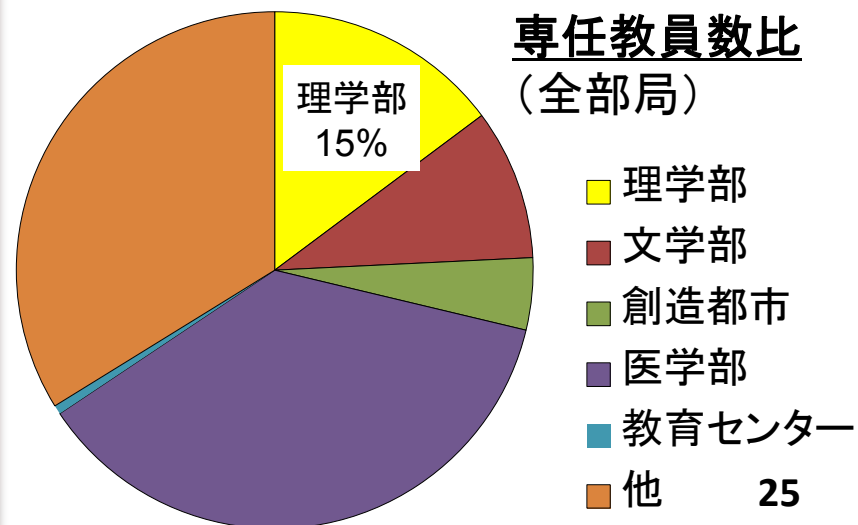
## 総合教育＋基礎教育 科目

### 担当クラス数比率

✓総合教育科目A  
✓総合教育科目B  
✓基礎教育科目

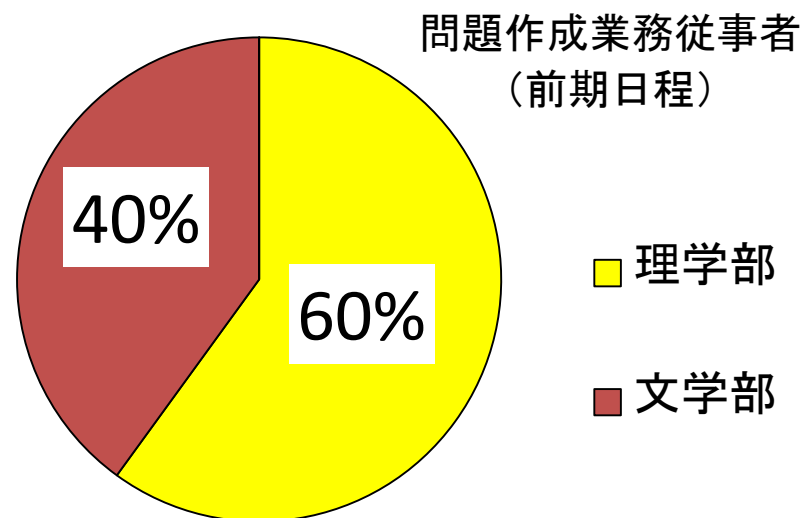
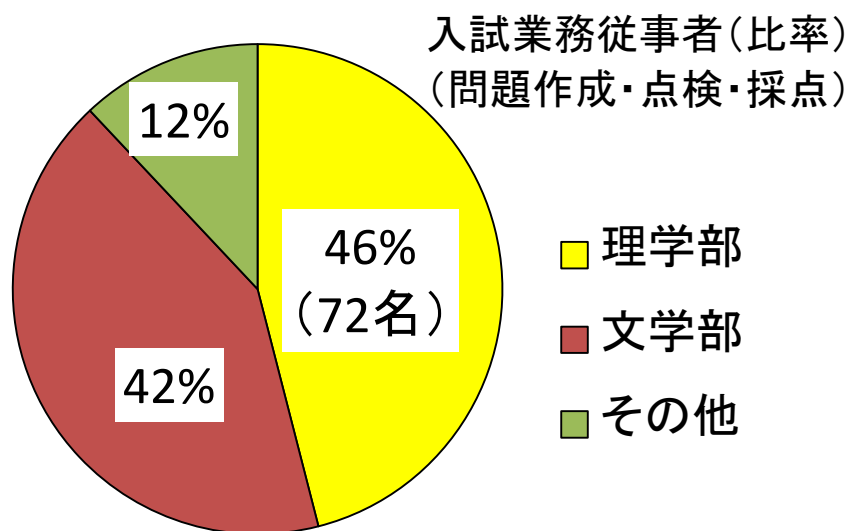


### 専任教員数比 (全部局)



# 入試業務への理学部の寄与： ⇒ ほぼ全員出動

◆H24年度の学部入試業務(問題作成、点検、採点業務)に従事する理学部教員数の比率(%) (試験監督業務は除く)



■ 前期・後期日程の入試業務(問題作成、点検、採点等)従事者の**46%**は理学部

(※理学部の専任教員数の全学比率は**15%**)

- ・ 加えて、推薦入試、編入学試験、大学院入試も担当
- ・ 大学入試センター試験の問題作成委員も複数名が担当(匿名)

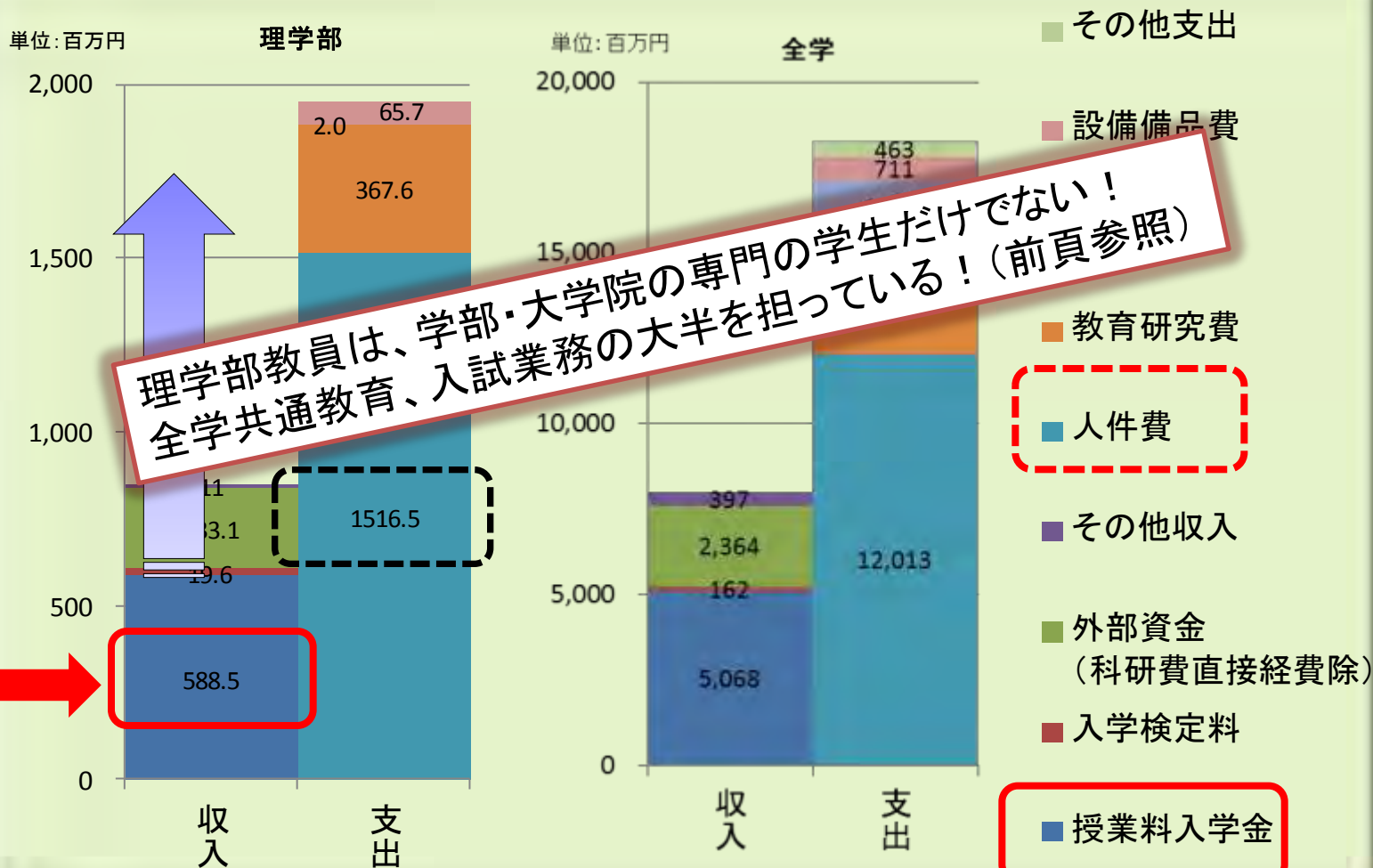
■ 前期日程の数学・理科の問題作成は**100%**理学部が担当

⇒ 推薦・編入学も含めると  
毎年、ほぼ**全員出動**態勢

## 6 財務関連

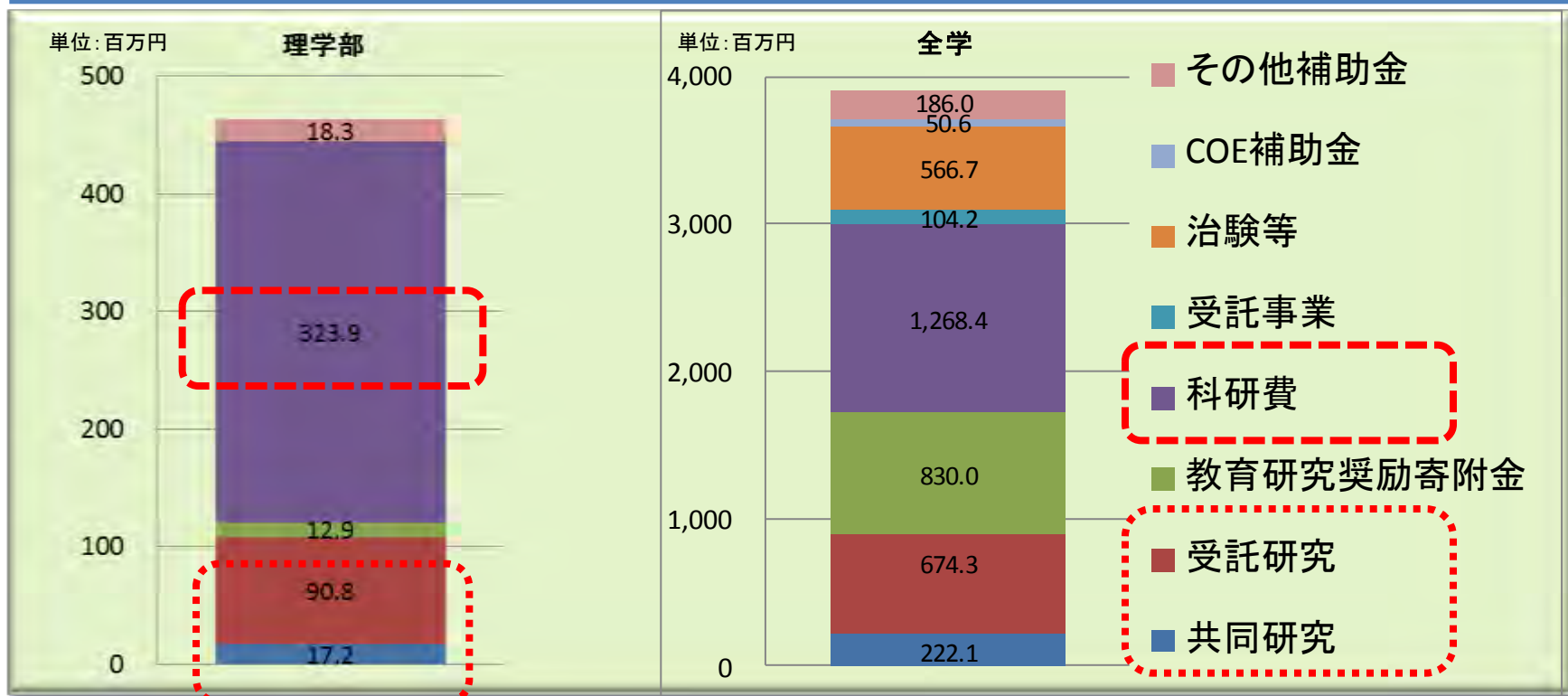
項目

収支状況(平成22年度)



## 7. 外部資金関連

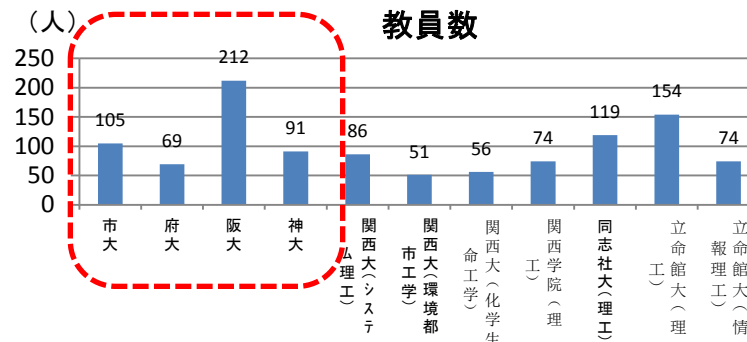
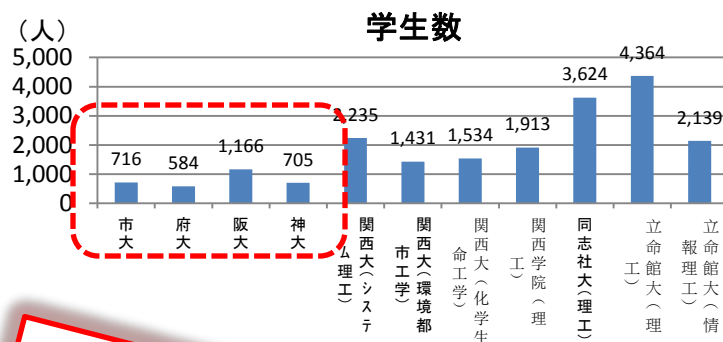
外部資金の状況(平成23年度)



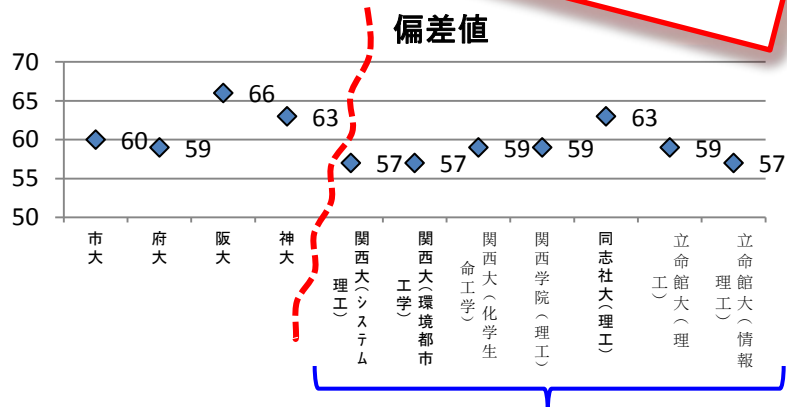
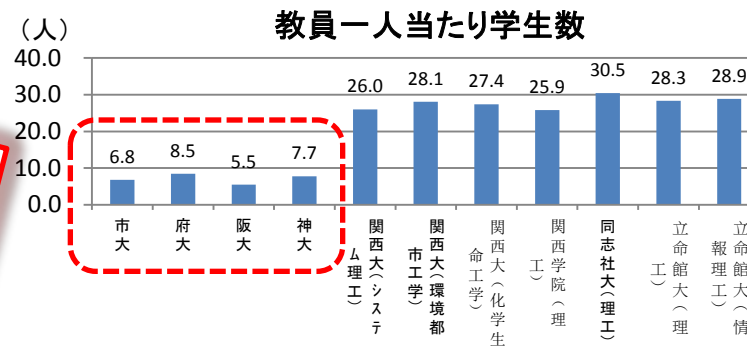
【獲得件数】

| 部局  | 共同研究 | 受託研究 | 教育研究<br>奨励寄付金 | 科研費 | 受託事業 | 治験等 | COE補助金 | その他<br>補助金 | 計     |
|-----|------|------|---------------|-----|------|-----|--------|------------|-------|
| 理学部 | 7    | 19   | 15            | 83  | 0    | 0   | 0      | 4          | 128   |
| 全学  | 131  | 160  | 879           | 383 | 13   | 291 | 0      | 16         | 1,873 |

## 8. 他大学との比較(理学部)



★担っている仕事の内容が違う。  
(例): 阪大では理系の全学教育は他学部や  
研究所・センター等の教員も担当している。  
大量の特任教員・非常勤も雇用しているので  
単純比較は出来ない。



※府大は、「学域制」導入前(H23以前)  
のデータを掲載。

国公立大と私立大の偏差値の比較は無意味！

- ・母集団が全く違う
- ・受験科目も違う
- ・私立は推薦入学者が非常に多い

## ② 他大学と比較した特徴(理学部・理学研究科)

1. 研究分野: 高度な基礎科学研究に重点を置く布陣
  - ⇒ 高度な科学研究＋バランス良く体系化された教育が可能
  - ⇒ 真に社会に貢献できる高度専門家の育成が可能
  - ⇒ その基盤の上に、国際化も進展、更に多くの実用研究が開花

★この意味で、国立大学(阪大、神戸大など)に匹敵する。

- ⇔ 府大や私学は、研究分野が偏っている(よく言えば選択と集中)
  - ⇒ 特定の偏った分野の人材しか育成できない。⇒ 真に役に立つ人材の育成は困難

### 2. 研究

- ✓ 各分野で世界をリードする研究業績をあげている。
- ✓ 科研費獲得件数(現職専任教授・代表者)  
阪大理 > 市大理 >> 神大理 > 府大理
- ✓ 論文の被引用件数

### 3. 教育

- ✓ 地域の人材を集め、高度な教育を施し、地域へ送り出している。
  - ⇔ **入学者の50%以上が大阪出身、卒業者の約60%が大阪圏**
- ✓ グローバル化(市大の国際化は理学部がけん引して発展中！)
- ✓ 教科書の執筆: 市大理 > 阪大 >> 府大理 > 神大理

# 1. 研究実績の比較

各分野で世界をリードする研究業績をあげている。

## 受賞

- ・ノーベル賞、学士院賞(3件)、大阪科学賞(3件)
- ・学会賞他 101件

## 論文

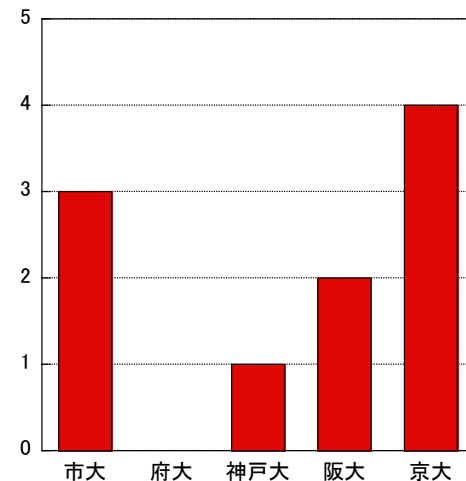
- ・Science 5報、Nature 3報、Nature姉妹紙 7報、PNAS 9報(10年間)
- ・他論文 456報/年
- ・高頻度引用 Phys. Rev. Lett. 74:2626. 1988回引用 他

国際会議招待講演 76件/年

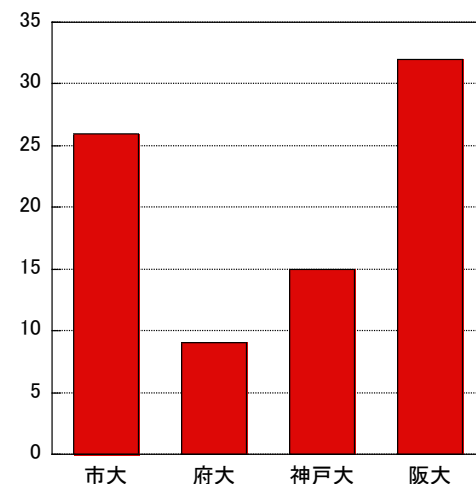
## 外部資金獲得・特許

- ・1000万円以上 12件/年
- ・科研費(別紙)
- ・特許申請 6件/年

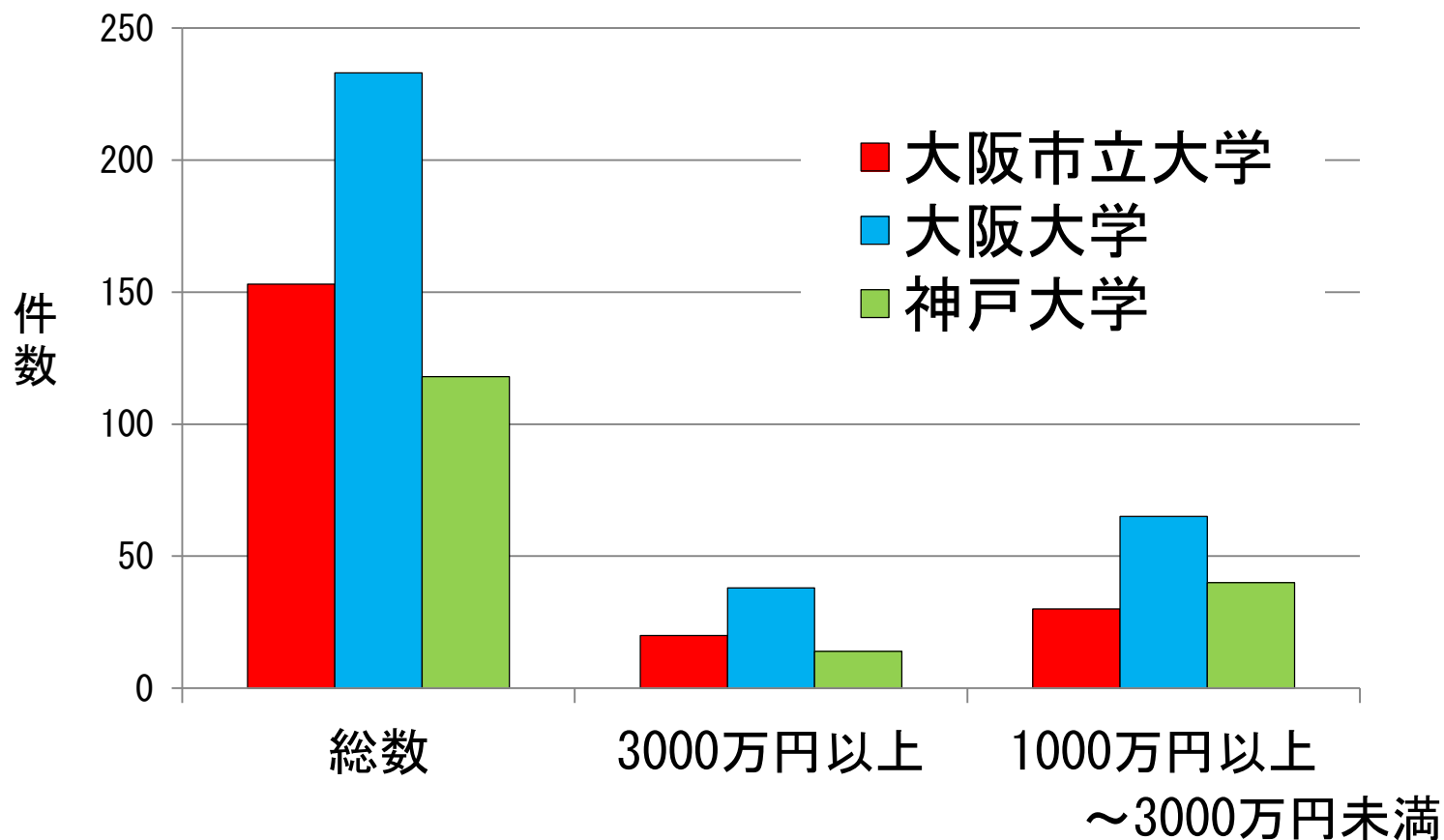
大阪科学賞件数(理学系)



1000万円以上件数(化学系)



## 現職専任教授による科学研究費補助金獲得実績比較(代表者のみ)

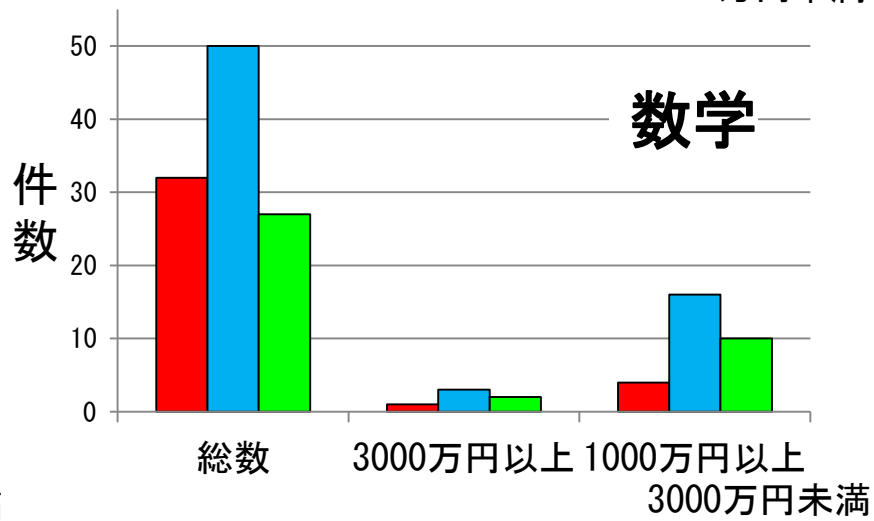
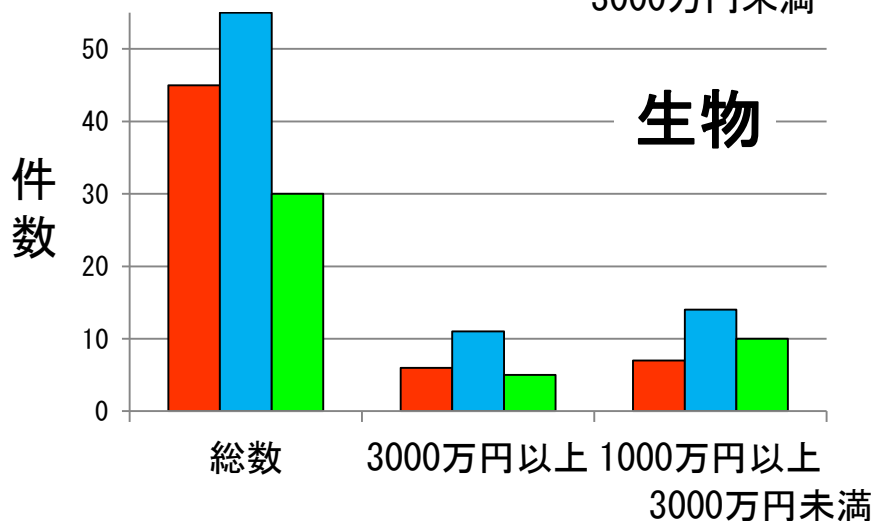
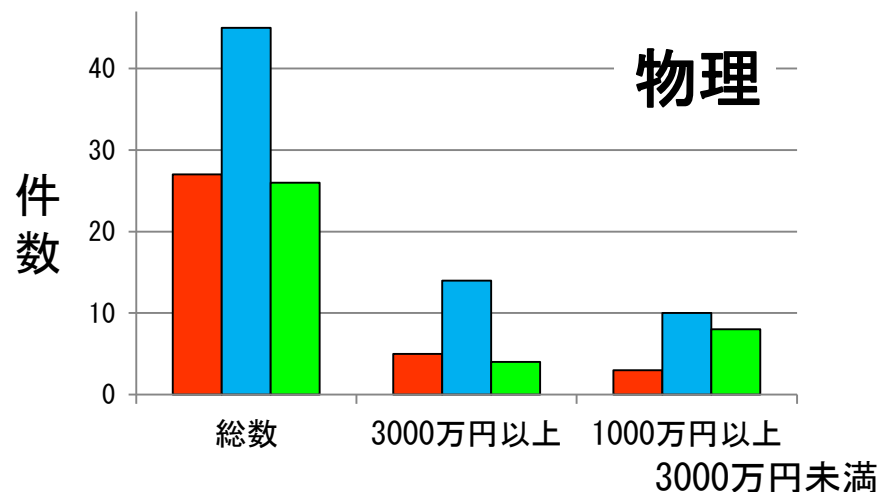
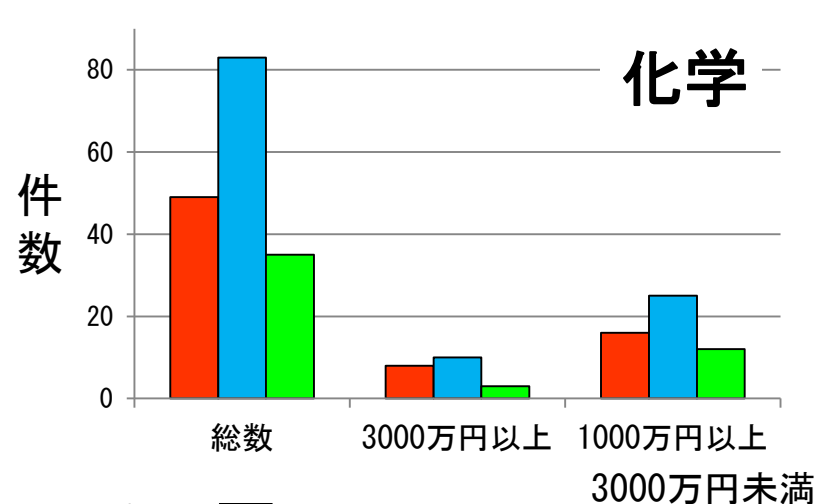


科研費データベースにより理学研究科の対応する専攻（化学、物理、生物、数学）の現職専任教授が代表者である申請の採択数を比較（採択年2003～2012年）

# 現職専任教授による科学研究費補助金獲得実績比較(分野別)

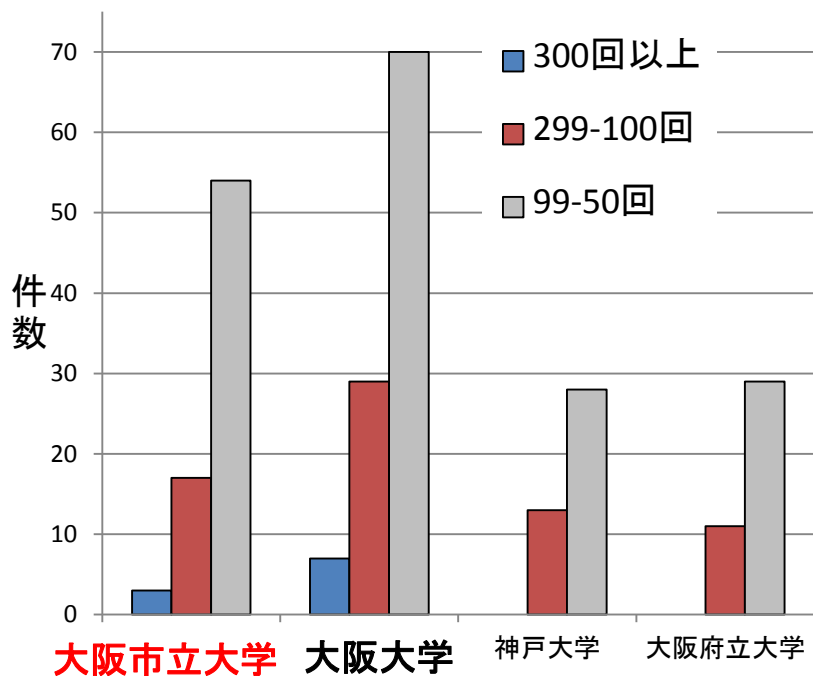
科研費データベースにより理学研究科の対応する専攻（化学、物理、生物、数学）の  
現職専任教授が代表者である申請の採択数を比較（新規採択年：2003～2012年）

■ 大阪市立大学 ■ 大阪大学 ■ 神戸大学



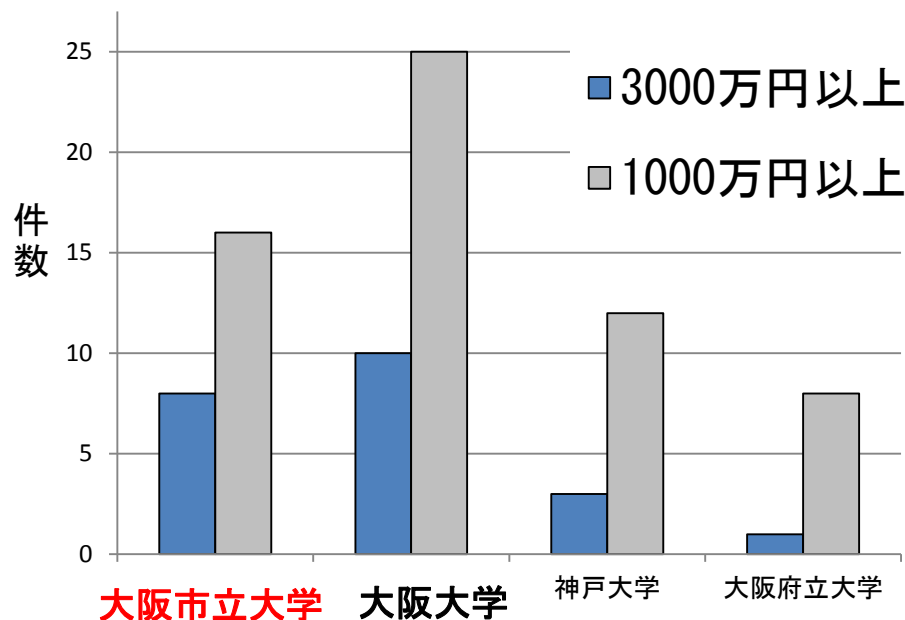
## 詳細な比較例：論文引用数・科研費獲得実績（化学分野の例）

現職専任教授の論文被引用数比較



科研費データベースで所属履歴を調査したのちweb of scienceで引用数を調査。前任校含む

現職専任教授による科学研究費補助金獲得実績（代表者、2003-2012年）：  
（代表者のみ）



科研費データベースで調査

調査対象

**大阪市立大学** 大学院理学研究科 物質分子系専攻

**大阪大学** 大学院理学研究科 化学専攻

**神戸大学** 大学院理学研究科 化学専攻

**大阪府立大学** 生命環境科学域 自然科学類 分子科学課程 分子科学専攻

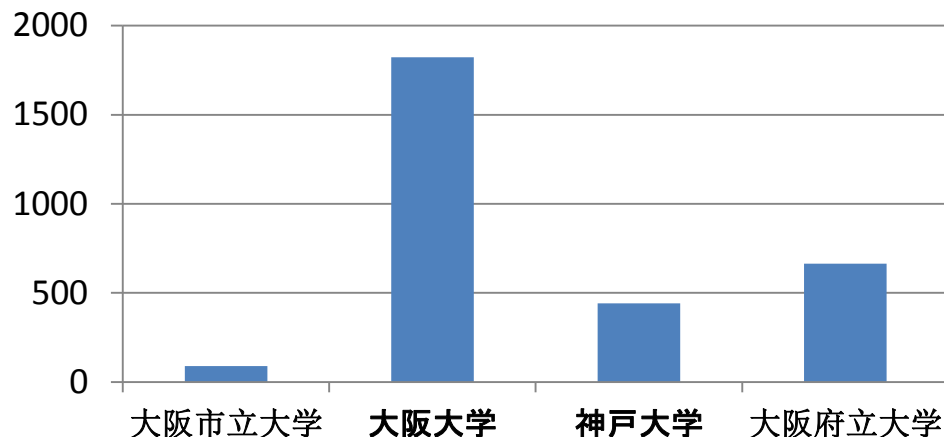
# 公開特許数

◆大学全体では、特許については大阪市大の取り組みは非常に遅れているが、

◆**理学系**では他大学と肩を並べるレベルにある。

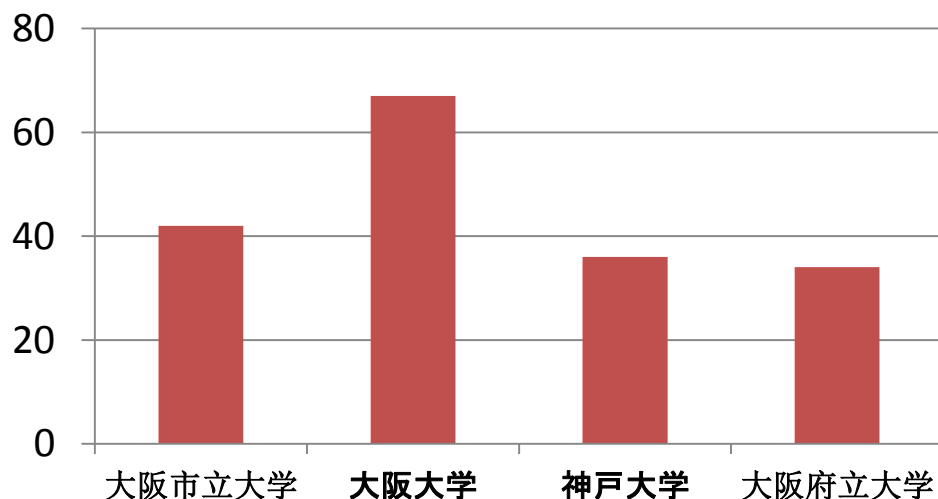


大学が出願人の公開特許数(大学全組織)



## 理学部(化学分野)の例

■ 教授が発明者である公開特許数(件)



### ※データ収集方法:

- ◆電子特許図書館 (<http://www.ipdl.inpit.go.jp/homepg.ipdl>) で、大学ホームページに記載された現職教授名で『発明者』を検索。
- ◆同一専攻内での重複は除外。
- ◆企業在籍時に取得した特許は除外。
- ◆平成5年以降の公開特許数をカウント。